ジャパントラストかわら版 情熱羅針盤 vol.242

ドレージ費用の現状とコスト構造

昨今のエネルギー価格の上昇に伴い、国内外で陸上輸送コストの負担増が顕在化しております。
単なる市況の変化としてではなく、そのコストがどのような要素で構成されているのか、現状を整理いたします。

JAPAN

◆燃料費と価格転嫁

国内のドレージ費用は、労働時間規制の強化と燃料価格上昇を背景に、「運賃＋付帯料金」で構成される傾向が強まっています。トラック運送原価に占める燃料油脂費は**約14～17％**とされ、足元の上昇分についてもサーチャージ等による転嫁が進められています。

◆付帯費用の顕在化

2017年の約款改正で明確化された待機時間料や積込・取卸料は、2024年問題や制度改正の流れを受けて収受が進展しつつあり、港湾での荷待ち時間は従来よりも**コストとして顕在化しやすい環境**へと変化しています。

USA

◆価格の急騰

米国のオンハイウェイ軽油価格は、2026年3月以降急騰し、4月初旬には$5.643まで上昇、直近も高水準で推移しています。前年比でも約50％の上昇となっており、この上昇は、特に陸送費用を中心に輸送コスト全体を押し上げる要因となっています。

◆過去との比較と展望

現在の水準は、**2022年6月に記録した歴史的な高値水準に迫る**状況にあります 。当時はロシア・ウクライナ情勢による供給不安が主因でしたが、ピークを境に短期間で値下がりに転じた記録もあります 。今回も同様の推移をたどるかは、中東情勢をはじめとした需給動向が、今後の価格推移を左右する要因となります。

US Retail Diesel Price（USD/gal）　2025年5月～2026年4月

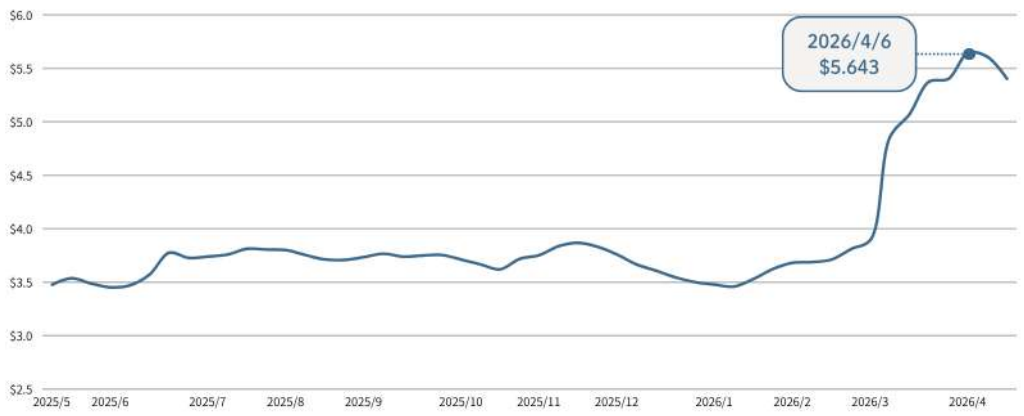
▲ 直近ピーク

$5.643

2026/04/06　直近最高値

◆ 急騰局面の背景

今回の急騰の背景には、中東情勢の緊張に伴う原油価格の上振れ、それに連動するディーゼル小売価格の押し上げがあると見られています。
加えて、米国の製油所稼働や留出油在庫の動向、世界的な需給の締まりが価格水準を支える要因として作用している点も、高止まりの一因と考えられます。



出典: YCharts / EIA Weekly Retail Gasoline and On-Highway Diesel Prices

市況の変動が続く中、弊社では日米のネットワークを活かし、状況に応じた最適な輸送手配に努めております。
スケジュールの試算やコスト見直しについては、担当営業までお気軽にご相談ください。

Quick Note

バンカリング（船舶燃料補給）の仕組みと主要拠点

船舶へ燃料（バンカーオイル）を補給する作業を「バンカリング」と呼びます。今回はその補給方法と主要拠点について整理しました。

Ship-to-Ship（STS）方式	Truck-to-Ship方式	Shore-to-Ship（Pipe-to-Ship）方式
燃料供給バージ船が本船に横付けして給油。主要港での最も一般的な方式。大量供給が可能。	岸壁停泊中の船へタンクローリーから補給する方法（小型船向け）	岸壁のパイプラインから直接補給する方法

近年は従来の重油系燃料に加え、LNG、バイオ燃料、メタノールなど次世代燃料への対応も進んでいます。

主要バンカリング・ハブ

■ 補油拠点が運賃に与える影響

バンカリングは船社の運航判断の一つであり、補油拠点の選択は運賃にも影響を与える要素とされています。燃料価格や供給状況に応じて寄港地や航路が調整されることで、スケジュールにも変化が生じる場合があります。
こうした背景から、補油拠点の動向は輸送条件の見通しにも影響を与える要素となっており、航路理解が安定した輸送手配やコストコントロールにつながります。

■ 日本港湾の現状

日本の港湾は、シンガポールなど主要ハブと比較して燃料価格面での競争力に課題があるとされており、国際的なバンカリング拠点としては限定的な位置付けにとどまっています。

【5月のアメリカの祝日】　5月25日(月)：戦没者祈念日（メモリアル・デー）